長野県立歴史館たより

春号 vol.118



長野県立歴史館特別館長 笹 本 正 治

今年11月3日に長野県立歴史館は満30歳にな ります。1988 (昭和63) 年4月に「第二次長野県 総合5か年計画」で、「埋蔵文化財、重要な史資 料の展示、保存、研究等機能を備えた施設を新 設」する方針が決定されました。そして、6月に は「文化財に関する施設建設基本構想懇話会」(県 内外の学識経験者12名) が設置され、1989(平 成元) 年7月に懇話会から報告書が提出されまし た。これをもとに1990 (平成2) 年10月に「県立 歴史館(仮称)建設委員会」が設けられて、11 月に至って建設基本構想骨子が決定されました。

1991 (平成3年) 年4月に開館準備専任職員が 配置され、5月に「県立歴史館(仮称)専門委員 会」ができました。翌年9月24日に起工式を行い、 1994 (平成6) 年5月に建設工事ができあがり、 8月には展示工事が完成しました。そして11月 3日に開館しましたので、今年は長野県立歴史館 にとって開館30年という節目の年なのです。

2019 (令和元) 年の25周年では「国宝土偶」展 を行い、大好評を博しました。本年度も記念の年 にふさわしい展示を企画しております。

夏季企画展は、木曽義仲没後840年というこ ともあって、「疾風怒濤 木曽義仲~文書と絵画 でみる義仲の一生~」です。長野県歌の「信濃の 国」でも「旭将軍義仲」と歌われて、県民にとっ て身近な歴史上の人物である木曽義仲ですが、彼 をメインにした展示はいまだ行われたことがあり ません。近年これまで知られていなかった義仲の 文書も見つかりました。初公開の義仲文書をはじ めとして、歴史館が購入してきた絵画資料などか ら、多面的に義仲を紹介してまいります。

多くの方は武田信玄と上杉謙信が戦った川中島 合戦のことを聞いたことがあることでしょう。今

年は川中島合戦が終結して460年になります。両 者の最初の戦いは八幡(千曲市八幡地区、武水別 神社付近) でなされました。私たちの館はこの第 1回の川中島合戦の舞台となった千曲市に設けら れています。そこで、秋季企画展には「描かれた 川中島合戦〜屛風・錦絵に描かれた戦の世界〜」 展を開催します。展示では『甲陽軍鑑』をもとに した岩国本の「川中島合戦図屏風」と、『北越軍 談』をもとにした紀州本の「川中島合戦図屛風」 など、川中島合戦を描いた屏風が並びます。また、 皆様のご支援によって購入することができた、長 野県にゆかりのある「武田晴信(信玄)書状」も 展示されます。

県歌「信濃の国」には「象山佐久間先生」が出 て来ますが、本年は佐久間象山没後160年に当た ります。冬期企画展は「佐久間象山の書と画」を テーマとして開催いたします。象山は多方面で活 躍しましたが、本展示では地元に残された遺墨か ら、彼の幕末の文人としての側面に光を当てます。

令和6年度から長野県立歴史館の管理部局は、 これまでの教育委員会から知事部局へとかわりま す。歴史館が大きな役割を負っている長野県史の 準備も佳境に入ります。30周年を迎えたという ことは、建物が老朽化してきていることにつなが ります。展示のリニューアルに向けても様々なこ とを考えていかねばなりません。さらに、第72 回全国博物館大会が松本市で開催されますので、 本館もそれを支えていく必要があります。

このように、様々な意味で本年度は歴史館の ターニングポイントにあたります。私たちにとっ て活力の源泉は皆様のご支援、ご協力です。職員 一同、心をこめて皆様をお迎えしますので、本年 度も度々歴史館へお出かけください。



紅戸時代の役人と文書

~「中馬荷物并口銭中馬稼之村名馬数等申渡書」~

現在、当館の古文書書庫には、寄贈・寄託・購 入により受け入れた史料が約34万点保管されて います。そしてその多くが近世に書かれたもので す。

34万点もあるので、まれに同じ内容の史料も 見られます。そんな史料の一つに「中馬荷物并口 銭中馬稼之村名馬数等申渡書」(以下「申渡書」と する)があります。矢代宿(現千曲市屋代)で本 陣と問屋の柿崎家をはじめ、水内郡間御所村(現 長野市問御所)で名主を務めた久保田家など、宿 場や村方の役人の家を中心に6点確認できます (史料名は異なりますが内容が同じものを含めれ ばさらに点数は増えます)。数の多さからもこの 史料が宿場や村方の役人にとって必携だったこと がうかがえます。では、「申渡書」とはどんな史 料なのでしょうか。

舟運に恵まれなかった信州では、農民が自分の 荷物を馬に付け市場へ運んでいたことを起源に、 馬で駄賃稼ぎを行った中馬が盛んにおこなわれま した。しかし、江戸時代の陸上輸送は本来宿場の 問屋が担っていたため、中馬と問屋との間に対立 が生まれ、多くの出入(紛争)が起こりました。 そこで幕府は、1764 (明和元) 年に裁許(判決)

を下します。それが「申渡 書」で、いわゆる『明和の 裁許』とよばれる史料で す。そこには、中馬稼ぎを 行うことができる村名や村 数、馬数、品物名、荷物 数、通る道筋が細かく定め られています。

さて、宿場や村方の役人 たちはなぜこの史料を持っ ていたのでしょうか。岩村 田宿(現佐久市岩村田)で 問屋を務めた依田家に「申渡書」の一部を抜粋し た「信州中馬出入御裁許御證文写他」という史 料があります。1872 (明治5) 年に書かれたも のですが、冒頭で「申渡書」を書き写し、後半で 中馬がそれに反し勝手をして宿場が難渋している ことを役所へ訴えています。このように宿場や村 方の役人たちは、何か事が起こると「これまでど うだったか」という先例を挙げてお伺いを立てて おり、先例となりうる触書や達しは書き写し、保 管していました。つまり「申渡書」を書き写して 保管することは、自分たちの権利や利益を守るた めに必要不可欠なことだったのです。

そして、宿場の役人たちが訴えを文書で伝えて いるように、領主から宿場や村方への伝達も全て 文書で行われました。さらに、川田宿(現長野市 若穂) で本陣と問屋を務めた西沢家に残る「申渡 書」には、役人が「申渡書」を書き写した旨を奉 行所に伝える請書の雛型まで確認できます。この ように、ありとあらゆることが文書で残されてお り、江戸時代が文書により統治されていたことを うかがい知ることができます。江戸時代の文書が 多く残るのは、その証拠なのです。

(新井寛子)



当館に所蔵される「申渡書」の数々

会期:令和6年3月23日(土)~6月16日(日) 2024年所蔵品展 学芸員の 長野県民がみた 幕末から現代~

今回の所蔵品展では、幕末以降の近現代史に関 する史料を展示します。展示資料は、「近現代史料 の多様性を示すもの」、「近現代における社会の変 化を象徴するもの」という2つの観点に基づいて 選定し、7つのテーマに分類して展示を構成しま した。

① 清水家文書 (県宝) 一大庄屋が接した黒船情報

松本藩の大庄屋であった 清水家に伝わった文書群で、 その総数は46,000点を超 えます。清水家は、松本藩 からの指示を受けて江戸に 行き、来航した黒船の情報 収集をしていました。信濃



異国船御防禦出府中書記

国に生きた人びともペリー来航の衝撃と無縁では なかったことを紹介します。

②農耕図一岩波其残が描いた信州の人びと一

其残は1815 (文化12) 年 に生まれ、文筆や芸事に親し み16歳頃、俳諧を始めます。 絵画を教えるなどして生計を 立てました。「農耕図」から、 当時の信濃の米作りの様子が わかります。



「農耕図」岩波其残

③ 長野県行政文書(県宝) ――天皇巡幸を迎えた長野県民―

明治天皇が東・北信地域を通過した1878(明 治11)年の北陸・東海巡幸について、公文書を 中心に展示し、天皇という存在を国民に印象づけ るために行われた巡幸を長野県の人びとがどのよ うに受け入れたかを紹介します。

4 満洲移民関係資料 ―人びとが記録した満洲―

全国最多の満洲移民を送り出した長野県。満洲 移民として長野県から大陸に渡った人びとが残し

た記録や絵画などを通じて、満洲での人びとの暮 らしや、満洲移民の実態について展示します。

⑤ 日本測定器株式会社疎開資料 ― 「世界のソニー」の原点がここにある―

戦時中須坂町に 疎開した日本測定 器株式会社は現在 のソニーのもとに なった会社です。 工場の設計図や井



日本測定器株式会社疎開資料

深大(後のソニー創業者)の手紙を通して、地域 が疎開企業をどのように受け入れたのかを展示し ます。

⑥ 遺跡の調査記録 一新たな地域史の発見一

戦後の発掘調査は、県民が自身の暮らす地域の 歴史を発見・認識する重要な機会となりました。

まず学術発掘の事例として地域の側からの要望 を受けて発掘調査が行われた塩尻市平出遺跡につ いて紹介します。次に緊急発掘の事例として、小 諸市郷土遺跡及び長野市篠ノ井遺跡群の調査記録 や出土遺物を展示し、高速道路や新幹線建設を契 機に新たな地域の歴史として認識されるに至るま での流れを紹介します。

(7) 雑誌創刊号コレクションー出版物にみる現代信州人の目―

当館には1,500冊以上にものぼる雑誌の創刊号 を中心に集めたコレクションが所蔵されています。 戦後以降の長野県民を取り巻く社会状況の変化や、 人びとの欲求・流行の変遷を見ることができます。

この7つのテーマ展示を通じて、時代や社会の 急激な変化を伴った近現代に長野県民がどのよう に向き合ったか、その一端を知っていただく機会 になればと思っております。学芸員のイチオシポ イントのコメントにもご注目ください。

※展示資料の写真を裏表紙にも掲載してあります。併せて御覧ください。

火季企画展を振り返

2023 (令和5年) 年10月7日出から11月26 日旧まで、44日間にわたって開催した秋季企画 展「信州やきもの紀行」は、県内外から4,185名 の方にご来館いただきました。誠にありがとうご ざいました。

※ 江戸時代に復活した信州のやきもの

鎌倉時代以降、そのほとんどが姿を消してし まった信州のやきものですが、江戸時代中期の終 わりから後期にかけて各地で復活をしていきまし た。近隣の産地である瀬戸や美濃だけでなく、信 楽、常滑、江戸といった遠方からも陶工を招いて いたことがわかっていて、彼らによって作り出さ れた信州のやきものは、地域の粘土や生活状況に よってその表情を変えました。県内各地に築かれ た窯の数は30を超え、その姿は決して煌びやか とは言えない武骨で素朴なやきものですが、地域 の生活を支えるために大切に使われ、文化として 根付きました。

今回の展示では、各地の窯で焼かれたやきもの を一堂に集め、地域の歴史をたどりながら、生活 の中のやきものの姿をご覧いただくような展示構 成としました。展示をご覧になった皆様からは、

「やきものには様々な形があり、用途の多さを感 じた」「信州にこれだけのやきものがあったこと に驚いた」「生活の場にある陶器から時代を思い



開館記念日(11月3日)の様子

起こすことは面白く、いろいろ考えながら鑑賞で きた」という感想をいただきました。

🗱 やきものの魅力に触れる

企画展の期間中 には関連イベント として、10月21日 に講演会、10月28 日に親子体験イベ ント、11月11日に トークセッション を開催しました。



陶磁史全般をご

講演会の様子

研究されている愛知県陶磁美術館元副館長の仲野 泰裕先生による講演会は、やきものの歴史からセ ラミックを応用した科学技術まで幅広くお話をし ていただきました。トークセッションは、松代焼 を復興された唐木田又三氏のご子息である伊三男 氏をお招きし、又三氏の人柄や、やきもの研究に注 いだ情熱、松代焼への思いなどをお伺いしました。

体験イベントでは長野市松代の松代陶苑様にご 協力をいただき、自分の手で粘土をこね、自分だ けの茶碗や湯呑を作っていただきました。このた よりが発行されている頃は、参加者の手元で一緒 に生活をしていることと思います。

※ 足元の歴史を未来へ

やきものは、どちらかというと美術的な価値を 求められることが多いと思います。しかし、今回 の企画展を通じて、地域に寄り添い、地域の人々 と生活をともにしてきたやきものは、地域の歴史 を物語る重要な要素の一つだと感じました。身近 なものにこそ歴史が詰まっています。忘れ去ら れ、消えてしまわないように、伝えていく努力をこ れからも続けていこうと思います。 (柴田洋孝)

考古資料 をよむ

デジタル化社会における 資料口収集と保管

発掘調査写真フィルムのデジタル化

発掘調査はやり直しができない実験である、と よく言われます。発掘調査した後は、建物などが 造られ二度と発掘調査はできない、という意味で はありません。発掘調査で出土した状況はその瞬 間しかみることができず、未来永劫その場所で同 じ瞬間に立ち会うことはできないという意味なの です。

そのため発掘調査では、掘るだけではなく図面 や写真など多くの記録をとります。どの場所でど のような状況で出土したのかを示す唯一の証拠と なるのです。写真はフィルムで撮影されており、 当館では、主に長野県埋蔵文化財センターが発掘 調査で撮影した写真フィルムを温湿度の変化が少 ない収蔵庫で保管しています。

しかし、現像された写真フィルムにも耐用年数 があります。安定した環境下で保管していても 徐々に退色が進み、撮影時の情報が欠落し始めま す。

そこで当館では、写真フィルムをスキャナーで 読み取りデジタル画像として保存する取組を始め ています。現在までに約35,000枚のフィルムを デジタル化しました。



近年のデジタル化社会において、デジタル写真 は資料の保存だけではなく、ウェブページなどそ の利活用においても大きく貢献しています。

デジタル画像の収集

スマートフォンの普及により手軽に写真撮影が できるようになりました。文化財もSNSや地図 アプリなど一般の方が投稿した写真によって多く の方が知る機会を得ています。

実は、一般の方が撮影される大量の画像は、文 化財の保存に大きく寄与する可能性をもっていま す。特に屋外にある文化財は、普段の風雨によっ ても徐々に劣化は進んでいきます。文化財の劣化 は主に、各自治体等の職員や地域住民の方々に

クされていま す。しかし、 文化財を訪れ た方々が撮影 した写真を活 用すると、 より綿密に文 化財の経年変 化を辿ること ができるので す。

よってチェッ



そのような 写真公募イベント(現在は募集しておりません) メタデータと

しての文化財写真を収集する一つの試みとして、 令和5年度夏季企画展の関連イベントで、県内古 墳の写真をフォトコンテストとして公募しまし た。多くの方からご応募いただいた作品に写され た現場の状況は、文化財の記録写真として、将 来、成果を発揮するでしょう。

(石丸敦史)

開館カレンダー 2024(令和6)年

2024(令和6)年 9 10 8 12 19 13 14 15 16 17 20 21 22 23 24 29 30

6 9 10 11 12 13 14 16 17 18 19 20 21 <u>22</u> ²³/₃₀ 24 25 26 27 29

2024(令和6)年

2024(令和6)年 8 9 10 12 13 11 16 17 18 19 20 14 15 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8

15

14

2024(令和6)年 9 10 8 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 **24** 25 26 27 28 29 30 31

10 11 12

16 17 18 19

23 24 25 26

2024(令和6)年 火 4 5 6 9 10 11 12 13 14 8 15 16 17 18 19 20 21 22 **23 24 25 26 27 28** 29 30

2024(令和6)年 未 4 10 11 12 9 8 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 27 28 29 30 31

2024(令和6)年 10 11 12 13 14 15 18 19 20 21 22 **24 25 26 27 28 29**

2025(令和7)年

2024(令和6)年

6 10 11 12 13 14 8 16 17 18 19 20 15 23 24 25 26 27 **29** 30 31

8 9 10 11 14 15 13 16 17 19 20 21 22 23 24 **26 27 28 29 30 31**

2025(令和7)年

月 12 19 9 10 11 13 14 16 17 18 20 21 24 25 26 27

2025(令和7)年

6 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19 20 21 ²³/₃₀ ²⁴/₃₁ 25 26 27 28

休館日 ※9/9~9/19は 全館燻蒸による休館

■ 【2024 年所蔵品展】所蔵品展 近現代史編 ~初公開史料を中心に~ 【秋季企画展】描かれた川中島合戦 ~屏風・錦絵に描かれた戦の世界~ 【冬季企画展】佐久間象山の遺墨

■【夏季企画展】疾風怒涛 木曽義仲 ~文書と絵画でみる義仲の一生~ 【2025年春季企画展】

企画展示 ~Special exhibition~

2024年所蔵品展 至宝の名品

学芸員のイチオシ 近現代歴史資料編 〜長野県民がみた幕末から現代〜

3月23日(土)~6月16日(日) 開催期間

開館30周年記念 企画展

夏季企画展

開催期間

疾風怒涛 木曽義仲 ~文書と絵画でみる義仲の一<u>生</u>~ 7月13日(土)~8月25日(日)





木曽義仲合戦図屛風(部分)当館蔵

伝斎藤実盛兜 (複製) 多太神社蔵

描かれた川中島合戦 秋季企画展

~屏風・錦絵に描かれた戦の世界~ 10月12日(土)~



開催期間



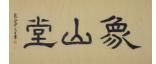
川中島合戦図屏風(部分) 当館蔵

武田晴信書状 当館蔵

佐久間象山の遺墨 冬季企画展

令和7年1月11日(土)~2月24日(月) 開催期間





額字土代 象山堂 真田宝物館蔵

イベント・講座 ~Event・Lecture~

5月5日(日) 歴史館で子どもの日 8月3日(十) 歴史館で夏休み 11月3日(日) 開館記念日

クリスマスリースづくり 12月1日(日) 近世史セミナー 12月7日(土)

3月20日(木)・22日(土)・23日(日) 親子映画会

県立歴史館講座 (事前予約制)

長野県の歴史に関する最新研究をもとにした講座です。 考古学や地域の歴史など、幅広いテーマを取り上げて 開催します。

□全7回開催:5月~3月考古学と関連分野をもとに した講座です。

□考古学体験講座:土器や石器などを実際に手に取っ て観察する講座です。 全3回開催 10月~12月

古文書講座(通年受講制)

古文書はまったく初めてという方を対象にした「初 級」、くずし字辞典を引き、ある程度文字を読むこと ができる方を対象にした「中級」、やや難しい近世文 書の読解ができる方を対象にした「上級」の3講座を 開設します。

- □各講座とも全6回開催(フォローアップ講座を含む)
- □通年受講制(5月~11月)
- □申込み受付 4月12日(金)~

※定員になりましたら締め切ります。

ティーンズ古文書・ティーンズ考古学講座

中・高・大学生を対象とした古文書講座と考古学講 座を開催します。(古文書8月2・3日)(考古学8月8・9日)

INFORMATION A

■2024(命和6)年3月~6月の行事予定 ...

3月

休館日 1·4 11·18 21·25 所蔵品展

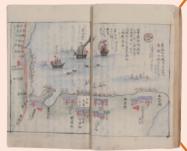
2024年 所蔵品展 至宝の名品

学芸員のイチオシ 近現代歴史資料編

〜長野県民がみた 幕末から現代〜

4月 休館日 1・8

15·22 30 3月23日(土)~6月16日(日)



清水家文書(県宝) 「異国船御防禦出府中書記」

5月 休館日 7·13 20:27

6月

3·10 17·24



長野県行政文書(県宝) 「北陸東海両道御巡幸二付伺并照会之部」



満洲移民関係資料 「丸田恒雄満洲更級郷絵画資料」



遺跡の調査記録「篠ノ井遺跡群」

講座・イベント

県立歴史館講座④ 3月2日(出)

「古代刀剣の保存処理・修復」 白沢勝彦 (当館考古資料課)

親子映画会

3月16日仕・17回・19日火・20日(祝水) ※いずれの日も13:30~15:00



懐かしい雑誌の創刊号も ご覧ください。

歴史館で子どもの日

5月5日(日・祝) 各種イベント

各講座の日程概要

古文書講座(上級)

5月23日(木) 古文書講座(初級B)

古文書講座(中級B)

5月25日生) 古文書講座(中級A)

5月26日(日) 古文書講座(初級A)

6月15日生) 歴史館講座②

古文書講座(上級) 6月20日(木) 古文書講座(初級B)

古文書講座(中級B)

6月22日(土) 古文書講座 (中級A) 6月23日(日) 古文書講座 (初級A)

各講座の申込開始時期は、 当館ホームページをご覧ください。

長野県立歴史館たより 春号 vol.118

2024(令和6)年2月15日発行編集·発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市大字屋代260-6 電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996 E-mail: rekishikan@pref.nagano.lg.jp ホームページ: https://www.npmh.net/

印刷 有限会社アッツーロ

表紙写真の解説

「農耕図」岩波其残

岩波其残は1815(文化12)年に、上諏訪中町 (現諏訪市)の旅籠大林屋山田両蔵の長男として 生まれました。文筆や芸事に親しみ16歳頃、高 島藩士で俳人の久保島若人の門に入り俳諧を始め ます。旅中、絵画等を教えるなどして生計を立て ます。「農耕図」は、色墨で着色された風景画 で、信濃の農民の様子を描いたものです。幕末~ 明治における信濃の人びとの暮らしぶりを知るこ とができます。

行事アルバム

***** 県立歴史館講座 *****



12月9日出、「赤い土器のクニ」をテーマに、当館職員町田勝則氏が研究発表を行いました。47名が聴講し、縄文時代から邪馬台国へとつながる人びとの営みについて稲作の伝播から本格化するまでに視点をあて、土器などの日常生活用品の変化を交えながら時代を段階的に感じとる機会となりました。

***** 特設考古学講座 *****



特設考古学講座では「文化財を未来へ伝える~木製品の保存科学~」と題して、3回に分けて木製品の観察方法や当館での保存・保管の解説を行うとともに、保存処理業務の一部を実際に体験していただきました。特に11月18日出は、木製品の水洗いの方法について真剣に学んでいただきました。



12月2日出の近世史セミナーは、前澤健氏から「榑木の渡入の実現過程」、菊上三樹夫氏から「松本藩戸田家の時代の林業」についてお話いただきました。天竜川、高瀬川等の木流しの様子、当時林業に従事した人びとの様子が生き生きと伝わってくる内容で、森林が維持され今の景観があることへの感謝を抱かずにはいられませんでした。